

シラバス

教 科	科 目	単位数	学 年	コ ー ス	組
芸 術	美 術 I	2	1	美術選択	1,2,3,4,5

教科書	美術1（光村図書）	副教材	
-----	-----------	-----	--

科目の目標	<p>1学期は基礎として手のデッサンをはじめ、遠近法に基づいた建物ある風景画，2学期には木版画の制作を行い，3学期は多くの技法を用いた，人物のいる内面表現絵画の制作を行う。</p> <p>また，西洋美術史では，近代から現代までの美術の流れを通して，各時代に生きた作家や美術における考え方の変化を学ぶ。</p>
-------	--

科目の概要	<p>対象や事象をとらえる造形的な視点についての理解を深め，意図に応じて創意工夫する創造的な表現を学ぶ。</p> <p>造形的なよさや美しさについて考え，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。</p> <p>美術を愛好する心情，美術文化に親しみ心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
-------	---

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」 ②「課題対応力」 ⑥「受信・発信力」	③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑩「自己実現力」	⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」
観 点 の 評 価	形や色彩，絵具，光などの性質が感情にもたらす効果，目的，歴史的背景，造形的な特徴を基に，全体のイメージや作風などで作品を捉える事を理解している。 造形の要素の働きを理解している。	造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，題材とするものと自己とを見つめ，感じ取ったことや考えたことから主題を形成する。 表現形式の特性を生かし，価値意識を持って形態や色彩，構成などについて考え，創造的な表現の構想を練っている。	材料や用具の適切な管理をし，課題の意図を理解し計画性をもって主体的に取り組み，よりよい創造を追求している。 各人の考え方や個性を尊重し，創造や考え方への理解を示している。
評 価 の 方 法	定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・課題への取り組み ・実技課題 ・授業内の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題への取り組み ・活動への意欲 ・自主的な取り組み

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	<p>(鉛筆による手のデッサン)</p> <p>美術におけるすべての基本であるデッサン(素描)を行う。デッサンをするうえで大切な要素として、比例、均衡、動勢、量感、質感、調子などがあるが、この六つの要素を学び、実際に自分の手を描き、物を見て描く。 鉛筆や消しゴムの使い方を学び、魅力的なデッサンを描く。</p>	<p>(手のデッサン)</p> <p>委縮せず大きく描き画面のバランスをとらえる。 手という一見複雑な形を、部分ごとに塊として見ることで、形態や量感や比例をとらえる。 光と影の様子から手の立体感や調子をとらえる。鉛筆を用いて細部を描写することで、質感を描き出す。</p>
	<p>(アクリル絵の具による建物のある風景画)</p> <p>線遠近法、空気遠近法、色価遠近法など、過去の画家たちが考え出した空間表現を学び、風景画に生かす。絵の具を使用する際、その特性、混色や彩色の方法を学び、実際に試みる。</p> <p>(西洋美術史)</p> <p>フランスでは革命により既存の政治体制が崩壊し、近代美術への流れが芽生える。新古典主義、ロマン主義、自然主義、写実主義について、当時の絵に対する考え方、画家が描いた作品の美術史的な役割や魅力を学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">【1学期 期末試験】 7月1日～5日</p>	<p>(風景画)</p> <p>心ひかれる風景を見つけて主題を決定する。 写真を基にして正確な形をとらえ、風景や建物に生じている遠近法を理解する。 紙と絵の具の特性を理解し、それぞれの対象に合った表現力を養う。</p> <p>(西洋美術史)</p> <p>近代美術へと続くロマン主義以降の絵画と古典絵画の違いを理解し、今後の美術鑑賞や活動に役立てる。</p>
2 学 期	<p>(多色木版画)</p> <p>題材を自由に選択し、多色刷りのために図柄を分割し、それぞれの色分けを行う。できあがった一枚の完成予想図を基にして、四つの版面にトレース法を用いて描く。ずれることのないように四つの面に分ける方法、見当の大切さを理解し、版を作製する際には、形に応じた彫刻刀の使い方、丈夫な版を作り上げる方法を学ぶ。</p>	<p>(多色木版画)</p> <p>木版画の表現にふさわしい絵柄を選び、版画表現として効果的な色分けを行うことで想像力と色彩感覚を養う。 見当を正確に彫りこみ、それぞれの部分や表現に応じた彫り方で版を作製し、創造の喜びを感じ取る。</p>
	<p>(多色木版画)</p> <p>彫り上げた版に絵の具を乗せ、見当に合わせて四版すべてを一枚の和紙に合わせて刷り上げる。刷る時の絵の具の状態、馬連の使い方、見当の位置、良い刷り具合を学ぶ。</p> <p>(西洋美術史)</p> <p>ロマン主義や写実主義の精神は印象主義で美術を大きく変化させ、近代美術へと移行する。19世紀後半に活躍した印象主義(先駆者マネ、外光派、点描派、後期印象派)について、当時の絵に対する考え方、画家が描いた作品の美術史的な役割や魅力を学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">【2学期 期末試験】 12月2日～6日</p>	<p>(多色木版画)</p> <p>版木と絵の具における水分の重要性を理解し、適切な版の状態を作り、正確に美しく刷り上げることで、表現の可能性と達成の喜びを感じ取る。</p> <p>(西洋美術史)</p> <p>印象主義からの表現や考え方の変化を追うことで、近代美術の特徴と20世紀へ続く美術の流れを理解し、今後の美術鑑賞や活動に役立てる。</p>
3 学 期	<p>(人物のいる内面表現絵画)</p> <p>生徒それぞれが自由に人物を選び、人物を中心とした内面表現絵画を、多くの技法(コラージュ、スパッタリング、デカルコマニー等)を用いて制作する。</p> <p>(西洋美術史)</p> <p>20世紀になると、美術は対象の模倣から離れ、独立した表現へと移行する。野獣主義、立体主義、超現実主義、抽象主義について、当時の画家の考え方、美術史的な役割や作品の魅力を学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">【3学期 学年末試験】 3月4日～8日</p>	<p>(人物のいる内面表現絵画)</p> <p>地塗りを行い、人物の特徴だけでなく、陰影や細部をとらえて描く。多くの技法から創造の喜びを感じ取り、観る人に訴えかける表現を考えて制作し、表現力を養う。</p> <p>(西洋美術史)</p> <p>20世紀の美術の作家と変遷を学び、現代に続く美術の流れを把握し、多様な表現を理解することで、今後の美術鑑賞や活動に役立てる。</p>